

学びあうための

第22回関東アコーディオン演奏交流会（コンクール）

2010年9月26日（日）北区滝野川会館

「重奏・小アンサンブル・合奏の部」結果発表

入賞・入選団体

重奏の部（出場25団体84名）

一位 ニュー・アンサンブル・アコルデ ユーモレスク～冬
稲葉由理子 園山三左子 齋藤みどり 秋澤加寿子 足立カヨ子
作曲：ヤン・トゥルーラー

二位 I l m a GANKINO HORO
伊藤千尋 高橋絢子
作曲：ブルガリア民謡 編曲：Lars Holm

三位 アミーゴ 弦楽四重奏曲「アメリカ」より第3楽章
大渕 恵 橋本千香子 中川ゆり子 池田 健
作曲：ドヴォルザーク

入選

- nero e bianco 哀愁のミュゼット
若松 紀 萩本善久
作曲：桑山哲也
- 土曜の女子会 The Easy Winners
大渕 恵 金子昌世 川原暁子
作曲：スコット・ジョプリン
- アコーディオン・カルパッチョ東部 トリッチ・トラッチ・ポルカ
金野直子 太田裕美子 佐藤八重 除村 裕 家子哲雄 石川 衛
作曲：J・シュトラウス 編曲：木下そんき
- チーム新宿 CHARLIE THE BOXER
太田裕美子 金野直子
作曲：STANLEY KARANKOWSKI
- 金曜の風 縦の木
野本淑子 菱田陽子 新井幸子
作曲：シベリウス 編曲：中山英雄

奨励賞

- たまことシスターズ 森へ行きましょう
佐藤タマミ 佐藤ことみ
作曲：ポーランド民謡 編曲：Xi-An Yu

小アンサンブルの部 (出場4団体14名)

- 一位、二位 なし

三位 アミーゴ タンガリア

作曲：リチャール・ガリアーノ 編曲：橋本千香子

奨励賞

- **a c c o m o n i c a** Corazon de Oro

作曲：Francisco Canaro 編曲：関田更如

合奏の部 (出場16団体137名)

一位 ウィンドバスカース 埼玉アコーディオングループ 荒城の月(ジャズフィーリング)

作曲：滝廉太郎 編曲：松永勇次

二位 東京労音アコーディオン研究会 薔薇色のメヌエット

作曲：ポール・モーリア 編曲：浜名政昭

三位 音楽センター南部教室 荒城の月

作曲：滝廉太郎 編曲：松永勇次

入選

ウィンドバスカース川口 サンバメドレー

作曲：アリー・バローゾ 編曲：松永勇次

音楽センター中部金曜教室 白樺

作曲：ロシア民謡 編曲：中山英雄

音楽センター東部教室 TONIGHT 「ウェストサイド・ストーリー」より

作曲：バーンスタイン 編曲：木下そんき

三多摩アコーディオンクラブ ラ・ビオレテラ(「街の灯」より)

作曲：Charlie Chaplin 編曲：川口裕志

努力賞

- 横浜アコーディオン愛好会 別れのブルース

作曲：服部良一 編曲：石居庸介

=学びあうためのコンクール=

第22回関東アコーディオン演奏交流会審査員会からの講評

《学ぶということ》

第22回関東アコーディオン演奏交流会、重奏・アンサンブル・合奏の部が2010年9月26日(日)北区滝野川会館に於いて行われた。いつもの様に審査要項を確認して、審査・採点方法を決め、審査員長を決めて慌しく審査にはいった。(裏面に続く)

審査は下記の我々9名に桑山哲也氏を加えて、今年も新たな発見に満ちていた。参加の皆様、運営に関わった皆様に大きな拍手をおくりたい。

重奏の部は25団体が出場。ニュー・アンサンブル・アコルデは細部にわたって良く聴き合う事が出来ていた。11 ma のデュオは曲のリズムをよく表現し、アミーゴは曲を全員が良く捉えていた。入選団体は、音量・音色のバランスが良く配慮されて、編曲の意図をよく生かしていた様に感じられた。唯一のジュニア参加「たまことシスターズ」は息のあった楽しい演奏であった。

小アンサンブルは4団体。アミーゴのタンガリアは意欲的な編曲を良くこなし、メリハリのある迫力のある演奏であった。

この部門、残念ながら時間超過があり、一位、二位はなしとなった。これらは今後の教訓としたい。C メロ譜のみの提出譜面は、アドリブを中心とするこの分野でどうすべきか、という論議がされた。

ハーモニカとのデュオ、accomonica は楽しくのびのびと演奏し参加者を励ました。

合奏の部は16団体の出場。入賞の三団体は各パートの役割が明確で、かつよく聞き合う事が出来ていた様に思う。入選の各団体も編曲の意図をよく理解して、バランスのとれた演奏が出来ていた。

今後の課題としては、タイミング、ハーモニーバランス、リズムバランス、ダイナミズムなどを更に深めていければ、魅力的な演奏になるだろう。

学び合いと交流を目的としたこの交流会、始めた頃と比較すると、選曲も、編曲も演奏も格段に良くなっていると思う。特に音の作り方が良くなっていると感じている。思いを音に込め、ジャバラを生かしたアコーディオンらしい音作りを意識してきたからだと思う。こういった意味での学び合いは成果と言えるだろう。

反面、全体的に参加の広がりはどうだろうか？子供の参加が少ない、同じメンバーが何回も出る、聴衆が少ない、表彰式に受賞者がいない、などなど気になる事があった。音楽的にも、歌や他楽器との接点、表現の多様性などはこれからの課題でもある。私自身も何を学んできたか問はれている様だ。

(担当 松永勇次)

《審査員》

特別審査員 桑山哲也

審査員 青山義久(合奏) 川口裕志

木下そんき 虞錫安

柴崎和圭(アンサンブル) 中山英雄

西尾正 松永勇次

山岡秀明(重奏)

()は審査委員長